

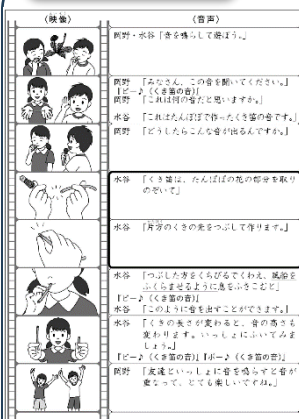
## 令和8年度 全国学力・学習調査の結果について

4月23日に、全国の6年生を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。今年度の調査は、国語と算数の2教科で実施されています。また、例年と同様、家庭での過ごし方や学習習慣などを問う質問紙調査も実施されています。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況についてお伝えしますので、今後の各ご家庭での生活や学習習慣等について考える機会として活用いただければと思います。

### 総合結果（国語・算数）

国語・算数の2教科で行われた今回の学力調査の正答率は、全国と比べ次のような結果となりました。国語－5.9%、算数－9.4%です。今回の調査では、記述式の問題での無回答率が全国・京都府と比較しても高くなっており（問題によって異なるが4～20%程度の無回答率で、全国と比べて最も差が大きい問題で全国の2.7倍の無回答率）、特に算数の思考・判断・表現のポイントが最も低い結果となりました。算数の測定の領域は高い正答率となっていました、それでも全国平均を3%下回っており、全領域で5～10%下回る結果となっていることから、特に算数の力の底上げが課題と言えます。

#### 国語科



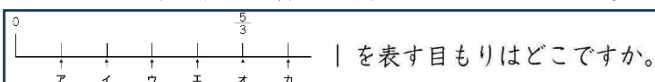
分かりやすく相手に伝えるための工夫を見つける問題での正答率が全国比で最も低かったです。また、いろいろな指定条件【本文の一部を引用する、引用部分は鍵括弧でくくる、140字以内で書く等】を満たした上で、工夫して自分の考えを書く問題の正答率が3%と全問題の中で最も低かったです。

国語科を中心としながら、様々な教科や日常生活の中で、音読や読書、要約、言葉を調べる、日記や作文を書く、話を聞く・考えを伝えるなどの経験を積み重ねることが、これらの力の向上のために重要であると考えます。

#### 算数科

$\frac{7}{3}$  と  $\frac{7}{4}$  では、どちらの方が大きいですか。

このような異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題での正答率が20%と低く、全国・京都府の半分以下となっています。



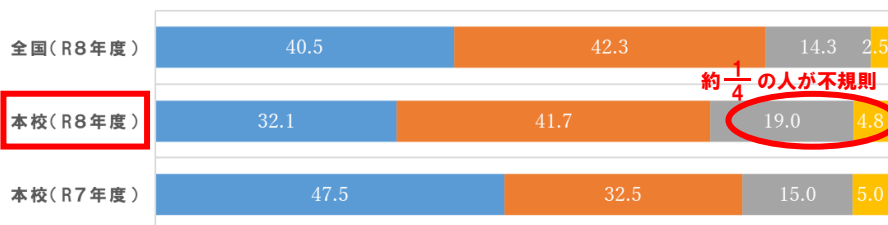
この問題では、0から $\frac{5}{3}$ の間が5等分されていることから、めもりの1つ分の大きさが $\frac{1}{3}$ であることを見出し、その3つ分が1であることを理解していることが求められます。

→このように、単純に計算をしたり答えを求めたりするだけでなく、学習して得た知識を組み合わせ思考・判断したり、言葉で説明したりする力が求められています。計算等の基礎基本の力と言語の力を高めていく必要があると言えます。

### 児童質問紙調査から①

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

■している ■どちらかといえば、している ■あまりしていない ■全くしていない



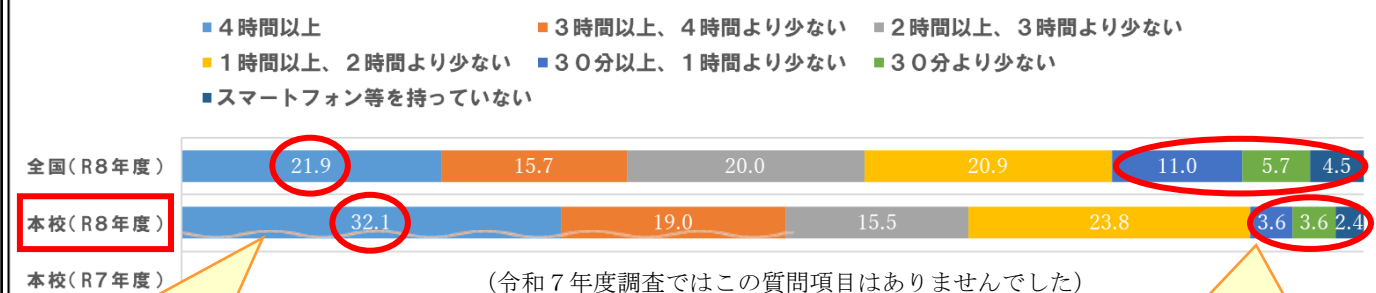
約 $\frac{1}{4}$ の人が不規則

「早寝・早起き・朝ごはん、規則正しい生活」は、健康的な生活を送る上で不可欠なものです。子どもの頃、生活習慣が整っていた人は、大人になってからも生活が充実していたり、資質・能力が高まったりするというような調査結果もあるそうです。大人も子どもも心身ともに健康でいられるよう規則正しい生活を意識して続けていきたいですね。今回の調査では、残念ながら本校の児童は、

就寝時刻についてはやや不規則である結果が出ていましたが、起床時刻や朝食については全国平均並みとなっていましたので、就寝時刻が少し不規則になったとしても、がんばって朝起きて登校することができている児童が多いと言えます。早起きには、体内時計のリズムを整え、心身の健康や集中力の向上につながるなど、様々なメリットがあります。人格や学力、身体的機能など、人生の基盤が形成される最も重要な人生の黄金期とも言える小学生の時期だからこそ、「早寝・早起き・朝ごはん、規則正しい生活」を大切にしてほしいと思います。

## 児童質問紙調査から②

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



3・4時間以上、スマートフォン等でSNSや動画視聴をしている児童の割合が全国比1.5倍近くいます

下校後、お子様はどのように過ごされていますか？1日1日の積み重ねは大きなものです。ぜひ有意義な過ごし方をしてほしいです。

SNSや動画視聴をしている時間が1時間未満の児童は、全国の半数以下（45%）となっています。

近年の研究では、低年齢からの長期利用が心身の健康リスクを高めることが指摘されており、依存傾向による生活習慣の乱れ、深夜までの利用による睡眠不足や運動不足、視力低下や脳の発達への悪影響の他、学習時間や集中力の低下など、様々なリスクがあると心配されています。スマートフォン等の無い生活は今や考えにくいと言えますが、利用時間の制限や寝室に持ち込まないなどのルールを決め、デジタルデトックスの時間を意識的に作ることが大切です。特に、子どもにとっては、家族と過ごして心を満たす時間や夢中になって遊んだり五感を使って過ごしたりする時間、心身の疲れを癒す余白の時間も大切です。デジタル機器から少し離れ、限りある時間を大切にしてほしいと思います。

## 全体を通した本校の成果と課題

「学校が楽しい」、「日常生活で幸せを感じている」児童の割合が高い一方で、「自分によいところがある」はやや低く、算数への苦手意識が高い児童が多いです。国語では、「授業が分かる」→「国語が好き」→「工夫をして文章を書いている」→「社会に出た時に役に立つと思う」という好循環が見られるので、他の学習でも同様に意識が高まり、学力向上につながると思います。まずは、今学習していることをよく理解し、学んだことを生かして次の学びにつなげ、学校での学びが将来につながることを理解していけるよう、前向きな声かけや支援をし、将来展望をもてるようにしていくことが大切だと言えます。

## 保護者の皆様へ

変化が激しく予測困難な時代を生きぬく上で必要となる「確かな学力」（知識や技能に加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質・能力）の育成が重要です。この「生きる力」とも言える「確かな学力」の定着には、日々の授業や家庭学習、様々な経験等の地道な積み重ねが必要であり、学校だけでできるものではありません。今後も、ご家庭での積極的な関わりや指導・支援をいただき、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力いただきますようお願いいたします。